

第42回 国立市健康危機管理対策本部会議記録

日時	令和5年2月10日（金）13時00分から13時45分
場所	市役所2階 市議会委員会室
出席者	永見市長、竹内副市長、雨宮教育長、藤崎行政管理部長、宮崎政策経営部長、松葉子ども家庭部長、馬橋子ども家庭部参事、大川健康福祉部長、葛原地域包括ケア・健康づくり推進担当部長、生活環境部長代理鈴木環境政策課長、北村都市整備部長、中島基盤整備担当部長、橋本教育部長、内藤議会事務局長、佐伯オンブズマン事務局長、玉江選挙管理委員会事務局長、菅野監査委員事務局長
付議事項	<p>(1) 都内、市内の状況の確認</p> <p>①東京都の状況（資料No.1～5）</p> <p>②市内の状況</p> <p>(2) 自宅療養支援室の対応について</p> <p>(3) 新型コロナウイルス感染症対策の基本的方針の変更等について</p> <p>(4) その他</p> <p>①消防機関からの情報</p> <p>②国立市医師会春日井会長からのコメント</p>
主な内容	<p>(進行：大川健康福祉部長)</p>
1 議 題	<p>(1) 都内・市内の状況について（橋本健康まちづくり戦略室長）</p> <p>①都内の状況(資料No.1～5)</p> <p>・モニタリングの状況では、いずれの項目も減少または横ばいの状況となっている。</p> <p>オミクロン株の垂系統への置き換わりが進んでいる。</p> <p>インフルエンザの感染者が増えていることから、流行状況を注視する必要がある。</p> <p>②市内の状況</p> <p>9/26からの全数届の見直しを受け、60歳以上の方の発生届での人数をこれまでの傾向の係数から全体の感染者数を計算すると、11月は2,000人、12月は3,000人を超えていただろうと推測される。</p> <p>(2) 自宅療養支援室の対応について（葛原地域包括ケア・健康づくり推進担当部長）</p> <p>・2月に入り、電話相談が0件の日も出てきた。物資の配送についても、1/30以降は0件の状態である。</p> <p>(3) 新型コロナウイルス感染症対策の基本的方針の変更等について（大川健康福祉部長</p> <p>●（資料No.9～No.10）</p> <p>・基本的な感染症対策は引き続き行う。</p> <p>・イベントについて緩和の方向性であるが、5000人規模の施設がないため、これまでの対応を引き続き適用していく。</p>

(4) 今後の対応について

①マスクの着用について

卒業式、入学式のマスク着用については、国や都の通知等をもって協議対応していく。

②相談窓口について

自宅療養支援室の土曜日の相談は2/18から休止し、緊急対応となる場合は管理職対応とする。医師会への通知、HP等の変更を実施する。

③医療機関の対応について

インフルエンザとコロナの判別がつかない発熱による受診で混雑している状況であり、医療機関に電話をしても断られる状況との相談が保健センターに入っている。

同時検査キットは医療機関のみの取扱いとなるため、コロナの検査キットによりコロナでないことがわかれば、通常の診察ができるのではないかと考えるため、医師会と相談していきたい。

④ワクチン接種

令和5年度に秋冬に高齢者の接種について、4月以降もワクチン接種を継続予定。

(5) その他

①消防からの情報（立川消防署内山予防課長）

12月に入り、東京消防庁全体においても困難事案が増加しており、過去最多となり、連日、非常用救急体制を組んで対応していた。また、119番通報はつながりにくい状況であったが、徐々に出動件数も減少している。

②国立市医師会春日井会長からのコメント

- ・患者数、高齢者の受診は減少している。40～50代がおおく、家庭内だけでなく、職場等での感染も多い。
- ・季節性インフルエンザの患者数は増加傾向にある。
- ・コロナとインフルエンザの同時検査キットの医療機関での流通は、安定している。
- ・5/8から5類の感染症の位置づけが予定されているが、特効薬ができたわけではないため、引き続き感染症対策をとり、マスクの着用も必要な場面では行ってもらいたい。

③市HPでの施設利用人数の案内について

HP上で施設利用について、更新があれば、更新をお願いしたい。

2 本部長指示及び対応方針について（永見市長）

5/8に法律上の位置づけが変わったとしても、コロナがなくなるということではないので、今後どうやって対応していくか考えてほしい。

以上